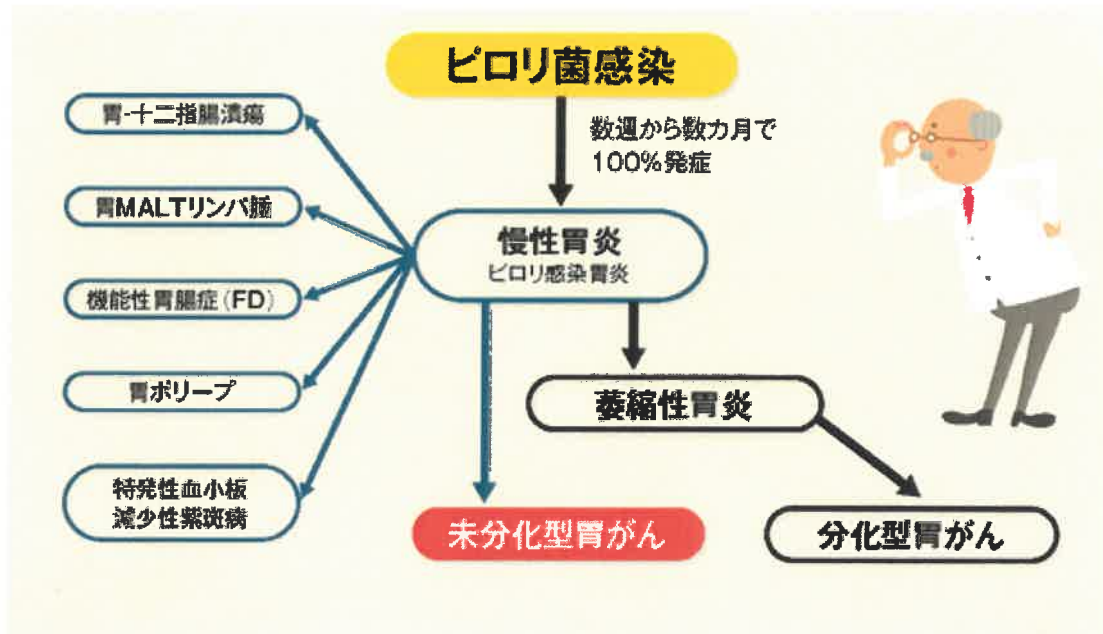


ピロリ菌と胃がん検査について

【ピロリ菌について】

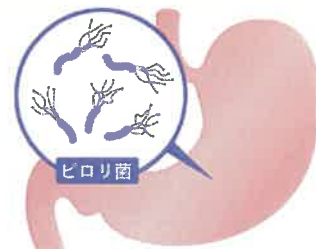
ピロリ菌の正式名は“ヘリコバクター・ピロリ”と言い、人などの胃の粘膜にすみつく細菌で、胃がんと密接に関係していると言われています。WHO（世界保健機関）によってピロリ菌は、「確実な発がん因子」と認定されました。これはタバコやアスベストと同じ分類に入ります。

ピロリ菌の感染が長期間にわたって持続すると、胃の粘膜が薄く痩せてしまう「萎縮」が進行し、胃がんを引き起こしやすい状態を作りだします。



【ピロリ菌の感染】

基本的には経口感染といって、口から入ります。現在では昔より衛生面が改善されたこともあり、ピロリ菌感染者数は少なくなってきました。



【ピロリ菌の除菌】

ピロリ菌に感染していることが分かったら除菌する事が大切です。胃粘膜の萎縮が進んでしまっている分化型胃がんに対しては予防効果はあまり高くありませんが、分化型以外の胃がんはピロリ菌除菌で発症リスクをかなり下げることが出来ると言われています。

【胃がん検査について】

画像診断部門における胃がんの検査は、胃X線検査（バリウム検査）と胃内視鏡検査（胃カメラ）の2つに分けられます。それぞれ特徴があり共に胃がんにも有効な検査として行われています。

【胃X線検査（バリウム）】

口から飲んだバリウムを胃の内側に付着させ、いろんな角度から撮影する検査です。がんの検査だけでなく、全体像を把握することが出来るので、外部から圧迫されていびつになっていたり、胃が硬くなってしまうような異常も発見する事ができます。

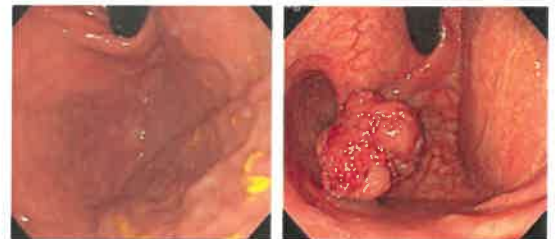
昔からある検査ですが、近年撮影装置のデジタル化が進み、20年前とは比べものにならないくらい鮮明な画像が得られるため、検査の精度、画像診断技術が飛躍的に向上し、医療被ばく共にかかり改善されています。

また、バリウム自体も改良が加えられ、以前より飲みやすく量も半分以下になっています。



【胃内視鏡検査（胃カメラ）】

胃の中をカメラの先から出る光で照らして、直接粘膜を見ることが出来るため、胃壁の色も判別する事ができます。バリウム検査よりさらに精密な検査ですが、費用がやや高かったり、バリウムと比べ時間もかかるため集団検診としては推奨されていません。



正常胃粘膜

胃がん

【バリウムと内視鏡どちらが良いか】

胃カメラ、バリウムともに非常に完成された有効な検査ですが、両方に長所と短所があります。胃カメラのスコープを鼻や口から入れるのがつらい場合はバリウム、一方バリウムや発泡剤がどうしても苦手な場合は胃カメラを選択するという方法も良いかもしれません。

	胃X線検査	胃内視鏡検査
費用	やや安い	やや高い
苦痛	やや少ない(個人差有り)	やや大きい(個人差有り)
生検	不可	可
X線被ばく	有り	無し
時間	3~5分	10~15分